

盛岡市

ヘルステック産業振興戦略

令和3年9月

盛岡市商工労働部ものづくり推進課

目 次

第1章 はじめに	1
1 戦略策定の背景	
2 戦略策定の趣旨・位置づけ	
3 戦略の期間	
4 戦略の見直し	
5 戦略における用語の定義	
第2章 現状と課題	5
1 ヘルステック産業における盛岡市を取り巻く現状と強み	
2 盛岡市の取組の成果と課題	
第3章 目標	16
第4章 戦略	17
1 戦略の柱	
2 戦略目標	
3 推進施策	
4 各主体に期待される役割	

第1章 はじめに

1 戦略策定の背景

(1) 盛岡市工業振興ビジョン

本市では、市総合計画に基づき、令和4年度までの市内ものづくり企業の振興策を体系化した「盛岡市工業振興ビジョン」を平成25年に策定（平成30年改訂）し、目指す姿（将来像）に「ものづくり・人づくりが育む豊かなまち盛岡」を掲げ、5つの施策推進方針に則って工業振興を進めてきたところであり、医療福祉機器分野については、次世代自動車、環境エネルギーの分野とともに積極的にアプローチを図る成長分野と位置づけ育成を図ってきました。

図表－1 盛岡市工業振興ビジョンの目指す姿、施策推進方針

<p>【目指す姿（将来像）】</p> <p>ものづくり・人づくりが育む豊かなまち盛岡</p> <p>【施策推進方針】</p> <p>① 成長市場を展望した事業展開への支援 ⇒【成長分野】医療福祉機器、次世代自動車、環境エネルギー</p> <p>② 盛岡オリジナル技術・製品開発の促進及び育成</p> <p>③ 地域を牽引する地場企業の経営力の強化</p> <p>④ 明日の盛岡を担う人材の育成・確保</p> <p>⑤ 産業集積基盤の整備・企業誘致の推進</p>
--

(2) 医療福祉機器分野に関連する産業の状況

昨今の医療福祉機器分野に関連する産業の状況は、少子高齢化の加速による医療・介護需要の拡大に加え、遠隔医療に関する技術革新や健康増進を目的としたヘルスケアデバイスの普及拡大など、Society5.0[※]を見据えたデジタル化が急加速しています。これに伴い、医療福祉機器などに先進的な技術を活用するヘルステック産業[※]の成長が見られるとともに、他業種の参入による新しいヘルスケアビジネスが多く生まれています。さらには、新型コロナウイルス感染症感染拡大により新しいヘルスケアビジネスの需要が拡大するなど状況が大きく変化しています。

※ Society5.0：サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、国の第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

※ ヘルステック産業：先進的な技術を活用した医療、介護、健康増進等のための機械器具、医薬品、ソフトウェア等に関する産業のこと

(3) 国の動き

国においては、2030年に世界最先端のバイオエコノミー※社会を実現することを目標に、持続可能性、循環型社会、健康をキーワードに産業界、大学、自治体等の参画も得て推進するバイオ戦略2020を策定しています。バイオ戦略では、9つの市場領域を2030年時点で総額92兆円の市場規模にすることを目指しており、そのうち、生活習慣改善ヘルスケアや機能性食品等は33兆円、バイオ医療・再生医療等関連産業は3.3兆円の市場規模を目指しています。

また、平成29年度に内閣府が実施した本市に対する地域経済循環分析によると、本市の経済対策の方向性の一つとして、病院など医療施設の集積を活かし、医療機器メーカー等の育成・誘致等によって集積した医療産業クラスターの形成が挙げられています。

※ バイオエコノミー：バイオテクノロジーや再生可能な生物資源等を利活用し、持続的で、再生可能性のある循環型の経済社会を拡大させる概念

(4) 岩手県の動き

県では「いわて県民計画（2019～2028）」（以下、「県民計画」という。）において、医療機器等関連産業の集積と高度化を促進する取組の推進するため、企業間連携や産学官連携による関連技術開発、販路開拓等の取組を支援することとしています。

なお、県民計画においては、10年後の将来像の実現をより確かなものとし、さらにその先を見据え、新しい時代を切り拓いていくための11のプロジェクトを設定しており、医療機器等関連産業の集積と高度化に係る取組は、特に「ILC※（国際リニアコライダー）プロジェクト」、「北上川バレープロジェクト」及び「健幸づくりプロジェクト」の推進につながるものとして、県民計画の目標の実現に貢献していくこととしています。

※ ILC（国際リニアコライダー）：全長約20kmの地下トンネルに建設される史上最大最高の高エネルギー電子・陽電子加速器を中心とした大型研究施設のことで、世界に一つだけ建設しようと計画されている素粒子物理学の頂点となる施設。リニアは「直線」、コライダーは「粒子衝突型加速器」。加速器とは、電気を帯びた粒子を加速する装置のこと。電子顕微鏡やがん治療装置等に使われている。

県は令和3年3月には、県民計画を踏まえ、岩手県医療機器等関連産業イノベーション創出戦略を策定しました。本県ものづくり産業がこれまで培ってきた高い技術力や優れた人材、共同研究の成果などを生かし、産学行政の連携による産業の高度化と、県内企業の医療機器等関連産業への一層の参入促進などにより、本県医療機器等関連産業が更に発展することを目指し策定したもので、2028年までに医療機器生産金額を575億円にする目標を掲げています。

また、令和2年6月には、県と本市の間で、県央地区から県南地区にまたがる北上川流域全体の産業の高度化・高付加価値化と、各地区の特色を生かした県全体の発展の実現を目指し、「岩手県

と盛岡市との産業振興の連携に関する協定（以下、「連携協定」という。）」を締結しており、連携項目には「ヘルステック分野などの成長産業の育成と支援に関すること」などが掲げられ、これに基づき県と本市による連携した取組が進められています。

図表－２ 新しい時代を切り拓いていくための 11 のプロジェクト（医療機器等関連産業関連分）

プロジェクト名	概要
I L Cプロジェクト	<p>I L Cの実現により、世界トップレベルの頭脳や最先端の技術、高度な人材が集積されることから、イノベーションを創出する環境の整備などを進めることにより、知と技術が集積された国際研究拠点の実現を目指すもの。</p> <p>I L Cの加速器技術の応用範囲は、医療・生命科学から新材料の創出、情報・通信、計量・計測、環境・エネルギー分野まで多岐にわたる。</p> <p>本市は県と連携してI L C誘致を進めている。</p>
北上川バレープロジェクト	<p>県央・県南広域振興圏にまたがる北上川流域において、広域的な連携の更なる促進や、第4次産業革命技術のあらゆる産業分野、生活分野への導入などを通じ、働きやすく、暮らしやすい、21世紀の先行モデルとなるゾーンの創出を目指すもの。</p> <p>本市で進めているヘルステック産業振興は、北上川流域全体の産業の高度化・高付加価値化などに貢献するものである。</p>
健幸づくりプロジェクト	<p>県立病院・大学等で保有する医療データや検診機関で保有する健診データ等を生かし、健康・医療・介護データを連結するビッグデータの連携基盤を構築し、その活用を通じて、健康寿命が長くいきいきと暮らすことのできる社会の実現を目指すもの。</p>

（５） 盛岡市内の関係機関・団体の動き

近年の本市内の状況は、先端的なライフサイエンス機器の創出を目指す企業主導の産学官連携組織であるT O L I C（東北ライフサイエンス・インストルメンツ・クラスター（トーリック））や、ヘルスケア産業の振興により住民の健康寿命延伸・医療費の削減につなげることを目的とした盛岡ヘルスケア産業協議会が設立されるとともに、地方独立行政法人岩手県工業技術センターに

においては、ヘルスケア関連産業の拠点形成を図るため、ヘルステック・イノベーション・ハブ（HIH）が開所されるなど、取組が活発化しています。

2 戦略策定の趣旨、位置づけ

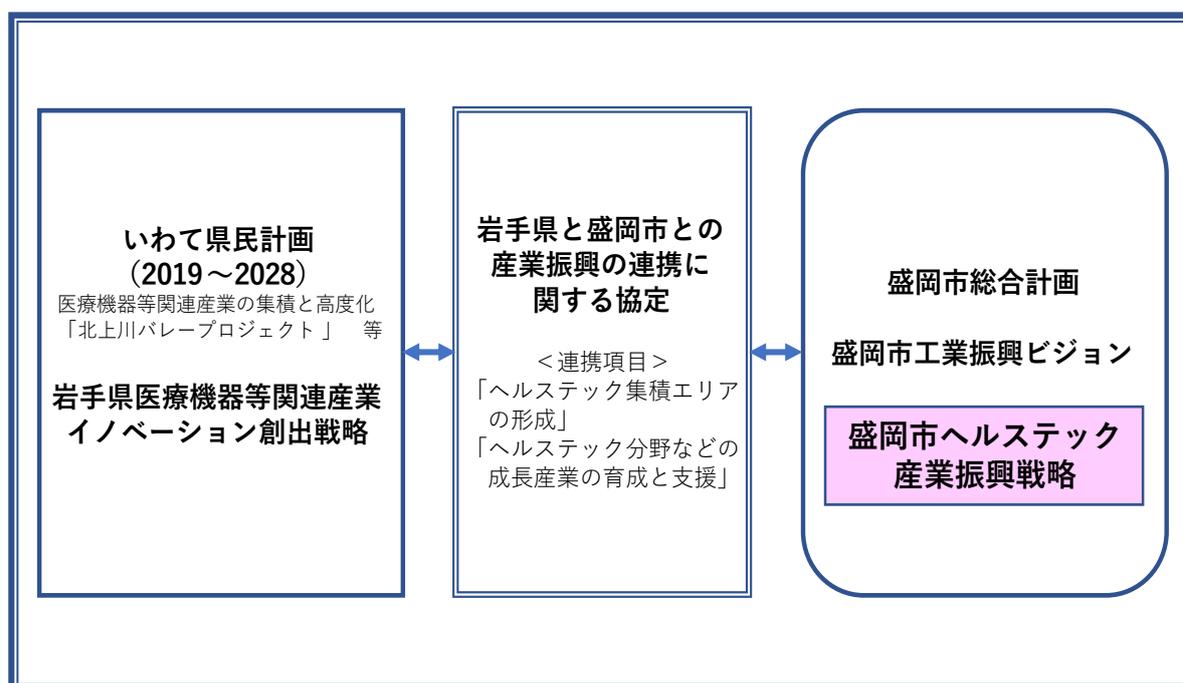
医療福祉機器分野に関連する産業の変化や国や県の戦略策定、本市内におけるヘルステック産業集積に向けた取組の活発化などを踏まえ、盛岡市工業振興ビジョンに掲げた目指す姿や施策推進方針を基本としながら、ビジョンに成長分野として掲げている医療福祉機器分野を含んだヘルステック産業に焦点を当て、目標や目標達成に向けた戦略、推進施策を明確化し、具体の施策や取組を推進する際の指針となるものとして、盛岡市ヘルステック産業振興戦略を策定します。

この戦略は、連携協定に掲げたヘルステック分野などの成長産業の育成と支援などに関し、具体的な取組を推進する上での基本的な方向性を示す指針にもなるものです。

この戦略による取組を通じて、本市のヘルステック産業の振興に加え、県民計画に掲げた医療機器等関連産業の集積と高度化や北上川バレープロジェクトなどの実現にも貢献していきます。

なお、この戦略は、特に連携協定を締結している県と共有を図りながら、県の医療機器等関連産業イノベーション創出戦略とも連携し、強力に推進していきます。

図表－3 戦略の位置付け



3 戦略の期間

本戦略の計画期間は、令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間とします。

4 戦略の見直し

この戦略は、ヘルステック産業に係る国や県の方針，社会経済情勢の変化などを踏まえ，概ね5年を目途に必要な応じて内容を見直すものとします。

なお，戦略の推進に大きな影響を及ぼす社会経済情勢の急激な変化等が見られた場合には，5年を待たずに見直しを行います。

5 戦略における用語の定義

- ・ ヘルスケア：健康の維持や増進のための行為や健康管理のことです。ヘルスケアに資する産業をヘルスケア産業とといいます。
- ・ ヘルステック産業：先進的な技術を活用した医療，介護，健康増進等のための機械器具，医薬品，ソフトウェア等に関する産業のことです。
- ・ クラスタ：英語で「房」「集団」「群れ」のことです。様々な企業群や支援機関等の連携・協業が活発化し，生産拡大や付加価値の創造が進む状態を指します。

第2章 現状と課題

1 ヘルステック産業における盛岡市を取り巻く状況と強み

本市内には（公財）いわて産業振興センターなど複数の産業支援機関と，地域連携に注力している岩手大学があり，近隣自治体には岩手医科大学，岩手県立大学，岩手県立産業技術短期大学校といった高等教育機関が集積しています。特に岩手大学，岩手県立大学，岩手県立産業技術短期大学校においては，ものづくり産業を支える多くの理工系人材を輩出しています。

これら産業支援機関や高等教育機関，ものづくり企業や金融機関等の参画のもと，多くの産学官連携組織による人的ネットワークが形成されていますが，ヘルステック産業分野においては，本市を中心に，T O L I C等の産学官連携組織や(株)バイオコクーン研究所等の大学発ベンチャーなどが生まれ，活発な活動が行われています。

さらに，岩手県工業技術センターにおいては，令和2年度に，産学官金連携や交流・共同研究開発の活動の場であるヘルステック・イノベーション・ハブを開所しており，活発な産学官連携とともに，ヘルステック分野の研究開発環境が充実してきています。

行政においてもヘルステック産業集積に向けた取り組みが活発に行われ、本市においては、令和元年度に、高度な工学的技術を医療機器製造事業やヘルスケア事業に応用し、ヘルステック分野の企業成長の支援と集積の促進を図る事業を開始し、また、令和2年度には、道明地区新産業等用地の第1事業区が竣工し、ヘルステック関連企業等が立地する新たな用地が整備されています。

平成29年度には、医療機関と連携してヘルスケア産業振興を進めていく体制が構築されており、盛岡地域のヘルスケア産業振興や住民の健康寿命延伸・医療費の削減を目的として、TOLICや本市、岩手医科大学、盛岡市医師会、盛岡市歯科医師会などが構成の盛岡ヘルスケア産業協議会が設立されています。

このように、本市を中心に、ヘルステック産業振興に向けた産学官の取組が活発化し、急展開を見せており、本市にヘルステック産業集積につながる強みが新たに生まれています。

図表－4 盛岡市を拠点としたヘルステック産業集積に向けた取組の推移

○	平成20年8月	いわて医療機器事業化研究会設立
○	平成26年8月	TOLIC設立
○	平成30年1月	盛岡ヘルスケア産業協議会設立
○	令和元年4月	成長分野拠点形成支援事業（ヘルステック分野の企業成長支援・集積促進事業）の開始（盛岡市）
○	令和2年4月	ヘルステック・イノベーション・ハブ開所（岩手県工業技術センター）
○	令和3年2月	道明地区新産業等用地第一事業区竣工（盛岡市）

図表－5 盛岡市の強み

○	豊富な理工系人材	○	活発な産学官連携	○	研究開発環境の充実
○	新産業等用地の整備	○	医療機関との連携体制が構築		

（1）いわて医療機器事業化研究会

平成17年4月の改正薬事法の施行により、医療機器製造工程のアウトソーシングが完全自由化され、技術力を有する地域企業の医療機器分野への新規参入や大手医療機器メーカーとの取引の可能性の高まりを受け、平成20年に産学行政が連携し、県内企業の医療機器産業分野への展開を推進するためのプラットフォームとして「いわて医療機器事業化研究会」が（公財）いわて産業振興センターに設立されました。

これまで、医療機器専門家によるコーディネート活動、関連法関係セミナー、医療機器メーカー講演会のほか、医療機器展示会への出展等を行い、医療機器試作開発や大手医療機器メーカー等との取引あっせんに向けた取組を展開しています。

研究会は、164の企業と大学等試験研究機関、行政機関等の会員で構成されており、うち企業は令和3年5月現在、136社、本市が所在地の企業は24社、盛岡広域では42社となっており、盛岡地域に企業が一定程度集積しています。

会員企業は、医療機器関連企業及び医療機器関連産業に興味を有する企業であり、医療機器製造販売業に加え精密機械機器製造業や情報処理サービス業など多岐にわたる業種の企業で構成されています。

(2) T O L I C (東北ライフサイエンス・インストルメンツ・クラスター (トーリック))

平成26年には、本市を中心とした先端的な医療機器製造業の集積を目指すT O L I Cが設立されました。

T O L I Cは、産学官金連携により生み出した盛岡発の先端的な工学技術をもとに、ライフサイエンス機器の開発・製造を行い、それを活用した新事業に関わるベンチャー企業を創出・育成し、再生医療等の先進的な研究機関との連携や、高い収益が見込める海外医療機器メーカー等との直接取引などを通じて、本市に医療機器や研究関連機器の技術開発拠点となるヘルステック・デバイスクラスターを形成しようとする組織であり、令和3年5月現在、法人会員(ライフサイエンス機器に関わる企業等)25社、個人会員(大学、工業高等専門学校、研究機関、教育機関、行政機関、金融機関、支援機関等に所属する個人)80名(29機関)で構成されています。

会員企業においては、これまで、スマートフォンで制御可能なペン型電動ピペットや卓上型多軸関節ロボットアームなどの製品が生み出されており、会員企業や岩手大学等が持つ優れた工学技術を基に、ヘルステック産業におけるものづくり拠点となることを目指しています。

本市では、T O L I C及び地域経済牽引事業者[※]であるT O L I C会員企業と連携しながら、ヘルステック産業集積につながるクラスター形成への支援や地域経済牽引事業者の海外展開を目指す新事業に対して助成を行っています。

※ 地域経済牽引事業者：「地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律(地域未来投資促進法)」に基づき、知事等が地域経済牽引事業計画の承認を行った事業者のこと。事業者は、地域の特性を生かして高い付加価値を創出し、かつ、地域内の取引の拡大、受注の機会の増大その他の地域の事業者に対する相当の経済的効果を及ぼすことにより、地域における経済活動を牽引する事業を行う。



【世界最大の医療機器展MEDICAへTOLICが出展（令和元年、ドイツ）】

（3） 盛岡ヘルスケア産業協議会

平成30年には、TOLICと本市が発起人となり、医工連携や6次産業の視点から新たなヘルスケア産業の創出と成長を促進することで、盛岡地域のヘルスケア産業振興を加速し、最終的には住民の健康寿命延伸・医療費の削減につなげることを目的に、盛岡ヘルスケア産業協議会が設立されました。

協議会では、民間事業者、医療関係機関、自治体、大学、金融機関など23の地域関係者が集まり、住民の健康増進に資する新たな事業が円滑に実施できるような支援を実施しています。

会員企業の中には、盛岡地域のドラッグストアで住民が気軽に血液チェックを実施する「次世代ヘルステック・ビックデータ利活用事業」に取り組んでいるところがあり、協議会では、これを支援対象事業に位置付け、この事業推進の一助となることを目的に、健康チェックイベントを開催するなどの支援をしています。

さらに、ヘルスケアに関する課題等を共有するとともに、それらの解決方法や新たな事業創出について検討しています。

本市は、この協議会に負担金を拠出するほか、協議会事務局として、関係者間の連絡調整や情報発信などを行うことにより、協議会の活動を支援しています。

図表－6 ヘルステック産業に関連する産学官連携組織の概要

名称	いわて医療機器事業化研究会	TOLIC（東北ライフサイエンス・インストルメンツ・クラスター）	盛岡ヘルスケア産業協議会
設立時期	平成20年8月	平成26年8月	平成30年1月
目的	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療機器関連産業の産学官機関の相互認知・連携交流の促進と裾野の拡大 ② 地域一体での医療機器関連産業振興に向けた意識醸成と目的・戦略の共有 ③ 連携による地場企業の技術力向上，新技術開発促進 ④ 一体的な情報発信による取引機会の拡大 	東北地域の先端工学技術と，医学的インテリジェンスを融合させることで，ユニークなライフサイエンス機器の迅速な創出を可能にし得る，萌芽事業を創生する集積拠点を盛岡市を中心に形成する	盛岡地域におけるヘルスケア産業の創出及び育成を支援し，住民の健康寿命の延伸，医療費の適正化，新産業及び雇用の創出，ヘルスケア産業関連企業の集積等につなげる
会員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 正会員 136（医療機器関連企業及び医療機器関連産業に興味を有する企業） ○ 特別会員 27（大学・試験研究機関・行政機関等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 法人会員25社（企業25社） ○ 個人会員80名 	23（企業8，大学2，金融機関5，行政・産業支援機関3，産学官連携組織2，盛岡市医師会1，盛岡市歯科医師会1，盛岡薬剤師会1）
役員	共同代表（共立医科機器㈱，谷村電気精機㈱，㈱東光舎）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 会長 小山康文（岩手大学特任教授） ○ 代表幹事 片野圭二（㈱アイカムスラボ 代表取締役） ○ 幹事 岩渕拓也（セルスペクト㈱ 代表取締役）他9名 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 会長 盛岡市商工労働部長 ○ 副会長 TOLIC会長
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ① コーディネート活動 ② 薬機法セミナー開催 ③ 医療機器展示会出展 ④ 医療機器関連情報の会員への情報提供 ⑤ 研究開発シーズ発掘 	<ul style="list-style-type: none"> ① ライフサイエンス・カンファレンスの開催 ② クラスター委員会，TOLIC企画会議の開催 ③ PR用ホームページ，パンフレット，PV等の制作 ④ 国内外展示会への参加・出展 ⑤ 大学生等の就職促進に資する事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ① 会員相互の連携促進及び連絡調整 ② ヘルスケア産業に関する調査，分析，情報収集及び情報発信 ③ その他，協議会のネットワークにより実施可能な支援
事務局	（公財）いわて産業振興センター	㈱イーハトーブスクエア	盛岡市商工労働部ものづくり推進課

(4) ヘルステック・イノベーション・ハブ（HIH）

県のヘルステック関連の中核企業の集積を促進し、新製品・新事業創出による地域経済の活性化とヘルステック産業の拠点形成を図るため、産学官金連携や交流・共同研究開発の活動の場として、岩手県工業技術センターの敷地内に整備し、令和2年4月に開所しました。

令和3年5月現在、TOIIC関連企業等が11社入居しており、入居企業から新型コロナウイルス抗体検査キットが開発・販売されるなど、入居企業を中心に共同研究開発や新製品開発が進んでいます。

図表－7 施設の概要

名称	ヘルステック・イノベーション・ハブ
設置時期	令和2年4月
設置主体	地方独立行政法人岩手県工業技術センター
設置場所	地方独立行政法人岩手県工業技術センター敷地内
施設規模	2階建 総面積 約1,200坪（1階・2階 各600坪） ラボ19室，協創ラボ1室（ブース貸出），会議室4室，多目的ルーム，多目的ホール，談話室，ロビー等
入居企業数	入居企業数：11社（ラボ7社，協創ラボ4社）



【ヘルステック・イノベーション・ハブ（令和2年4月開所）】

(5) 大学発ベンチャーの創出

本市では、岩手大学と連携し、高度な技術や革新的な研究成果を持つ大学発ベンチャーの創出や事業化を推進しています。平成19年に岩手大学構内に本市が設置した、32の研究開発室を備えたインキュベーション施設である盛岡市産学官連携研究センター（コラボMIU）では、岩手大学発ベンチャーや岩手大学と共同研究を実施する企業が入居し、新製品開発・新事業創出のサポートを受

けながら、活発に活動しています。

ヘルステック産業分野においては、平成28年4月にコラボMIUに入居した岩手大学発ベンチャー企業、(株)バイオコクーン研究所が、カイコ冬虫夏草などに由来するヘルスケア成分を利用し、食品及びヘルスケア製品を製造しています。令和3年1月には、カイコ冬虫夏草から認知症機能改善が期待できる新規物質「ナトリード」を発見したことを記者発表しており、大きな飛躍が期待されています。

(6) 道明地区新産業等用地の整備

道明地区新産業等用地は、製造業や研究開発系企業の集積と地場産業の業務拡張のための用地として計画されたもので、本市では、令和元年度から第一事業区の造成工事に着手し、令和3年2月に完了しました。

当該新産業等用地は、既存市街地と一体的に整備された盛岡南新都市に隣接し、新幹線、高速道路ICとのアクセスにも恵まれており、また、地区内には試験研究機関や産業支援機関が設置されているほか、周辺は、住宅地の整備が進められ、職住が近接する新しい形の産業等用地となっています。

さらに、事業所の立地・拡充等を支援するため、固定資産投資額の一定割合の補助など独自の優遇措置を設けており、特にヘルステック事業については、最も有利な内容を設け、ヘルステック関連企業等の集積を推進しています。



【道明地区新産業等用地】

図表－8 道明地区新産業等用地の概要

面積	全体面積 約11.5ha 第1事業区（令和3年2月竣工） 約4.8ha 第2事業区 約6.7ha
土地規制	市街化区域準工業地域（道明地区地区計画） 建蔽率 60% 容積率 200% 工場立地法（昭和34年法律第24号）に基づく特定工場における緑地面積確保割合 15%

図表－9 道明地区新産業等用地企業立地促進事業補助金の概要

対象区域内に対象業種の工場などを新設，拡充又は移転した場合，固定資産税投資額および新規常用雇用者数等に応じて補助金を交付しています。

【新設の場合】

事業区分	固定資産投資額	新規常用雇用者数等	補助割合	補助限度額
ヘルステック事業	1億円以上	1人以上又は雇用者数維持かつ生産性向上10パーセント	100分の20	3億円
リーディング産業	1億円以上	製造業：10人以上かつ最終計画20人以上 製造業以外：5人以上	100分の15	3億円
上記以外の事業	1億円以上	製造業：10人以上かつ最終計画20人以上 製造業以外：5人以上	100分の10	1億5千万円

【拡充又は移転の場合】

事業区分	固定資産投資額	新規常用雇用者数等	補助割合	補助限度額
ヘルステック事業	1億円以上	1人以上又は雇用者数維持かつ生産性向上10パーセント	100分の20	3億円
リーディング産業	1億円以上	1人以上又は雇用者数維持かつ生産性向上10パーセント	100分の10	1億5千万円
上記以外の事業	1億円以上	製造業：10人以上かつ最終計画20人以上 製造業以外：5人以上	100分の10	1億5千万円
		1人以上又は雇用者数維持かつ生産性向上10パーセント	100分の5	1億5千万円

※ ヘルステック事業：対象業種のうち，先端的な技術を活用した医療，介護，健康増進等のための機械器具，医薬品，ソフトウェア等の製造又は研究開発を行う事業

※ リーディング産業：食料品製造業，金属製品製造業，ソフトウェア業，情報処理サービス業及び情報提供サービス業

※ 生産性：物的労働生産性（生産数量/従業員数）又は価値労働生産性（生産額/従業員数）

2 盛岡市の取組の成果と課題

(1) 盛岡市の取組の成果

本市では、これまで、高等教育機関やTOLICなどの産学官連携組織と連携しながら、ヘルステック・クラスター形成や地域経済牽引事業者の海外販路拡大支援、盛岡ヘルスケア産業協議会と連携した会員企業が行うヘルスケア事業への支援、クラスター構成企業と連携した人材の育成・確保・定着などを進めてきています。

これにより、TOLICの構成企業の売上高や大学との共同研究、会員企業の増加につながっているとともに、地元高等教育機関の学生がTOLIC構成企業に就職しています。さらに、TOLIC中核企業と盛岡地域のドラッグストアが実施している健康チェック事業が拡大するなど一定の成果が出ています。

主な取組	主な成果
○ クラスター形成、海外販路拡大支援	○ TOLIC構成企業の売上高、大学との共同研究、会員企業が増加
○ クラスター構成企業と連携した人材の育成・確保・定着	○ TOLIC構成企業に地元高等教育機関の学生が就職
○ 盛岡ヘルスケア産業協議会と連携した会員企業への支援	○ TOLIC中核企業と盛岡地域のドラッグストアが実施する健康チェック事業が拡大

(2) 盛岡市の課題

本市では、産学官連携組織の活発な活動や支援施策の展開などにより、ヘルステック関連企業の集積が一定程度見られるとともに、集積が加速する兆しが見られています。

本市のヘルステック産業を成長させ、さらに集積を促進させるためには、次の課題が挙げられます。

ア 研究開発型企業の成長とヘルステック・クラスターの創出

- 自社製品を事業化できる企業が少なく、低付加価値な産業構造
- ヘルステック関連企業が少なく、経済効果が低い
- 今後、集積が進んだ場合、活動や研究開発拠点の拡大が必要

ヘルステック関連に限らず、県内企業の多くは下請型・賃加工型であり、付加価値の水準が低

い状況にあります。これら企業が研究開発型企業へと成長し、高付加価値な製品開発を進めていくためには、企業間連携のほか、大学、試験研究機関、産業支援機関等との連携による共同研究や開発を推進する必要があります。

このことから、本市のヘルステック産業を成長させるためには、本市の内外から関連企業の呼び込みによる集積やベンチャー企業の創出とともに、プロジェクト提案力と遂行力を持ち合わせた研究開発型企業を中核企業に成長させ、中核企業を中心に形成した企業群（ヘルステック・クラスター）が、産学官連携ネットワークを活用しながら付加価値の高い新製品・新事業を数多く創出していくことが必要です。

なお、商品開発に当たっては、市場や販路を見据えて行う必要があります。さらには、医療機器等の市場で大きなウェイトを占める海外市場を見据えた展開も必要です。

現在、本市内に所在するヘルステック関連の中核企業は、本市内外の高等教育機関や企業と活発に連携して新製品開発に取り組んでおり、データヘルスや医療機器の巨大市場であるヨーロッパなどへの販路拡大を目指し、マーケティングや現地法人設立準備を開始するなど、大きな成長の兆しが見られているものの、本市へのヘルステック産業集積による経済効果を高めていくためには、次に続くヘルステック・クラスターの創出が必要です。

なお、今後、産業集積が順調に進んだ場合に、本市内において企業の活動や研究開発拠点を拡大していく必要があるとともに、産学官連携研究開発を行うためのヘルスケア・ライフサイエンス関係の研究機関との連携をさらに強めていく必要があります。

イ ヘルステック関連企業と連携した地域の健康増進につなげる施策の不足

- ヘルステック関連企業における地域住民を巻き込んだ健康増進事業の実施が少ない
- 行政による健康増進施策等とヘルステック関連企業の連携不足
- ヘルステック関連企業と医療機関との連携不足

本市を含む岩手県においては、過疎化の進行による高度医療・遠隔地医療の提供体制不足や、高い脳卒中死亡率など、医療・健康に関して地域が抱える課題は多い状況です。

国内他地域においては、ヘルスケア分野において事業化している企業が、地域住民を巻き込みながら、住民の健康意識の醸成や健康寿命の延伸に資する実証実験等を実施することにより、商材となるビッグデータ収集による企業の収益向上や社会貢献活動による企業価値や知名度の向上

などを同時に実現している事例が見られます。

しかしながら、本市の健康増進施策とヘルステック関連企業との連携が不足し、また、ヘルステック関連企業においては、本市をフィールドにした健康増進事業の実施や住民をコーディネーターとする活動がほとんどなされておらず、大きなチャンスロスが生じています。

また、ヘルステック関連企業と病院等医療機関との連携も不足しています。

ウ ものづくり人材の流出

- 人材の流出
- 高度ものづくり人材の育成・確保・定着
- 子供や若者の地元企業に対する認知度が低い

本市内では、将来性のある事業や魅力的な新事業を展開するヘルステック関連企業が立地し、県内の大学や高等学校と連携して地元定着の取組に力を入れているものの、ものづくり人材を数多く輩出する高等教育機関の卒業生の半数以上は県外の企業に就職していて、地元に着する学生の割合は、平成26年が44.6%、平成29年が42.8%と低迷しています。

学生の地元定着を目指す県内大学を中心とした組織である「いわてで働こう推進協議会」による平成29年の調査によると、若者の6割は県内で就職することを希望しているものの、その4割近くが県内に本社を持つ企業を1社も知らず、5社以下しか知らない若者は9割に及んでいます。また、安定志向であり、勤務条件のよさそうな首都圏の大企業や公務員が主な志望先となっているという結果も得られています。

このことから、岩手の企業を知る機会が少ないため、学生が岩手には面白い企業が少なく、例えば「世界を相手にビジネスをする」という夢を県内企業への就職では実現できないとの印象を持っているものと考えられます。また、創業間もないベンチャー企業には、安定志向の若者にとっては、経営面での不安要素を感じて就職をためらっているという状況も窺えます。

第3章 目標

持続的な業種横断型の産学官連携により、事業化から世界展開までを一貫して実施し地域経済を牽引するとともに、地域の健康と福祉を支え、高度人材と企業を惹きつける魅力的なヘルステック・クラスターを形成する。

本市では、将来的には道明地区新産業等用地をはじめとする盛岡南地域に、産学官や企業間、地域、住民、医療機関との連携を活発に行うヘルステック関連企業の集積と研究開発型企業を中核としたクラスター形成を促進することにより、高度な技術による先進的なヘルステック事業の国内外の展開や地域住民が参画した事業を展開する拠点化を図り、高度人材が魅力を感じる雇用の場を創出するとともに、本市内外の企業が魅力を感じ、本市を活動拠点としたヘルステック産業への積極的な進出・参入が行われる集積拠点を創出することを目指します。

この目標を実現するため、本市の現状と課題を踏まえながら、産学官が本市のヘルステック産業の目指す方向性を共有し、緊密に情報交換を図りながら活動していきます。

第4章 戦略

目標の達成に向けて、ヘルステック関連企業はもとより、県や近隣市町村、大学等高等教育機関、産業支援機関等と緊密に連携し、効率的、効果的に役割分担を図りながら、次の3つ戦略を柱に施策を展開します。

1 戦略の柱

○ 戦略1 ヘルステック・クラスター形成と構成企業の成長支援

クラスター構成企業が、国内外の研究機関や企業の研究開発プロジェクトを呼び込みながら、強力な産学官連携のもと革新的な新事業創出・高度技術開発に取り組み、盛岡発の新製品を世界に向けて持続的に売り込む、高収益なビジネス展開を図る。

【取組の方向性】

- ① 研究開発から製品化、海外展開を含めた事業化を支援
- ② ヘルステック関連産業におけるイノベーションの創出
- ③ ヘルステック関連企業を呼び込む拠点の創出
- ④ ヘルステック関連産業におけるベンチャー創出・育成の促進

○ 戦略2 ヘルステック関連企業と連携した地域住民参画プロジェクト支援

ヘルステック関連企業と連携した地域住民参画プロジェクトを実施することにより、企業業績向上と住民の健康寿命延伸を同時に実現する事業を多く生み出すとともに、他地域の企業を誘引する。

【取組の方向性】

- ① 地域住民の健康増進をもたらす事業の創出
- ② ヘルステック・クラスターと地域との連携促進

○ 戦略3 人材の育成・確保・定着

地域を巻き込みながら世界展開を目指すヘルステック関連企業が、地域での認知度を高めるとともに、地元人材の育成・定着に加え、高度人材を全国から呼び込む。

【取組の方向性】

- ① 高度ものづくり人材の育成
- ② 人材を盛岡市に呼び込む取組
- ③ 児童生徒・学生を対象としたヘルステック関連企業の周知

2 戦略目標

3つの戦略ごとに、指標、目標値を設定するとともに、戦略推進によって実現を目指す姿を示します。

(1) 指標, 目標値

指 標	現 状	目標(5年後)	目標(10年後)
	令和2(2020)年度	令和7(2025)年度	令和12(2030)年度
ヘルステック産業を牽引する中核企業数(累計)(戦略1関連)	2社	5社	9社
住民参画事業数(累計)(戦略2関連)	1件	3件	5件
ヘルステック・クラスター構成企業への新規就職者数(累計)(戦略3関連)	4人	100人	300人

(2) 戦略推進によって実現を目指す姿

ア ヘルステック・クラスター形成と構成企業の成長支援

- ヘルステック関連企業が国内外の研究機関や企業と有機的に連携して先進的な産学官連携研究開発や新事業創出が活発に行われ、中核企業と企業群によるTOLIC等のヘルステック・クラスターが成長する。
- TOLIC等ヘルステック・クラスター構成企業が高付加価値製品による高収益な事業展開を行い、国内外との取引が拡大する。
- TOLIC等ヘルステック・クラスター構成企業の業容が拡大し、研究開発部門や生産部門の増設や新規設置がなされるとともに、雇用が拡大する。
- IT産業や農林水産業などの異業種やILC誘致と連携した新規参入企業が創出される。
- ヘルステック関連の新規創業、ベンチャー企業が創出される。
- 国内外のヘルステック関連企業や取引企業が盛岡地域に進出する。
- ヘルステック関連の研究機関や企業の研究開発部門が設置される。
- 新たなヘルステック・クラスターが形成され、関係機関が連携し新たな集積拠点が設置される。

ヘルステック産業においては、地域の中小企業の国内での事業展開は、大手企業の下請けが多く、自社技術を製品化して高収益な事業を展開している例は少ない状況です。したがって、地域の中小企業の成長を図るためには、国内のみならず海外市場にも目を向けていきながら、高度な技術力に立脚した高収益な事業展開を図る必要があります。

本市においては、地域の中核企業が国内外の研究機関や企業等との産学官共同研究により創出した技術を用い、付加価値の高い製品化を行うとともに、海外展開までを見据えた事業化による取引拡大を通じて、高収益な事業を展開することにより、中核企業と企業群によるヘルステック・クラスター形成を図ります。さらに、ヘルステック・クラスターが業容を拡大し成長することにより、研究開発部門や生産部門の増設や新規設置がなされるとともに、雇用が拡大します。

また、業種横断型の産学官連携を推進することによるIT産業や農林水産業など多様な業種との連携やILC誘致との連携により、ヘルステック産業参入の間口を広げ、更なる企業集積を加速させます。

さらに、国内外のヘルステック関連企業や取引企業における研究開発拠点や生産拠点、研究機関の本市への進出を推進するとともに、新規創業やベンチャー企業の創出・育成を推進します。

これらクラスター形成と成長の取組をモデルに、本市内外の企業に横展開を図ることで、次に続くクラスター形成が促進されるとともに、新たな集積拠点が設置されます。

イ ヘルステック関連企業と連携した地域住民参画プロジェクトの支援

- 盛岡ヘルスケア産業協議会の取組を通じて、住民や医療機関が参画した実証実験の実施事例が創出される。
- TOLIC等ヘルステック・クラスター構成企業による企業の業績向上と住民の健康増進を同時に実現する先進的な地域ヘルスケア事業が創出される。
- 住民参画事業や行政と民間のデータ連携などの仕組みが確立し、盛岡市がヘルスケアや医療のモデル地域になり、ヘルステック関連企業の業容拡大や新規立地、研究機関の立地が生まれる。
- ヘルステック関連企業の活動が広く認識され、地域に根付き、住民に親しまれる企業になる。

企業が地域において安定的に事業を継続するためには、地域の企業や住民に必要とされ、親しまれる企業となることが不可欠です。そのためには、住民と密接に関わりを持つ行政は、産学官と連携しながら、企業が地域の中で、社会貢献活動はもちろんのこと、住民利益の創出と企業収

益向上を同時に実現する事業を、円滑かつ持続的に行うための環境整備を進めることが必要です。

このため、地域住民の健康をリソースとしたヘルステック関連企業の事業展開への支援に加え、事業の成果を地域住民の健康増進につなげ、ヘルステック関連企業の業績向上と健康寿命延伸を同時に実現する仕組みや、行政が住民の参画する事業のフィールドを提供し、企業や高等教育機関、医療機関を円滑に事業参画にコーディネートする仕組み、行政と民間のデータ連携により健康増進を図る仕組みなどを盛岡ヘルスケア産業協議会と連携して確立します。

これにより、クラスター企業が行う先進的な地域ヘルスケアビジネスの創出事例が生まれ、本市がヘルスケアや医療のモデル地域化となることを目指します。

本市がモデル地域になることにより、ヘルステック関連企業や研究機関等にとって魅力的な都市となり、企業の業容拡大や新規立地、研究機関の立地などが促進されます。

ウ 人材の育成・確保・定着

- 子供の頃から、ヘルステック関連企業を知る機会が設けられている。
- 他地域からも子供が集まり、活発に体験・学習を行っている。
- 小中学生から大学生等までの各段階に応じた内容で、人材育成が行われている。
- 盛岡市内の高度人材が、魅力的な就職先としてヘルステック関連企業を認識し、安定的に就職し、市内に定着する。
- 盛岡市外の高度人材が、魅力的な就職先として市内のヘルステック関連企業を認識し、U・Iターンが促進される。

ヘルステック・クラスターの形成や構成企業が成長していく上で、人材の育成・確保・定着を図ることは不可欠です。このため、子供の頃からヘルステック関連企業を知る機会を作り、小中学生から大学生等までの各段階に応じた内容で、ヘルステック関連企業に興味を持ってもらいながら、人材育成する機会を作ることが必要です。

子供向けのサイエンス教室や体験学習の場や、高校生や大学生等がヘルステック関連企業の仕事を体験する場を作ることにより、広く企業の活動が認識され、ヘルステック関連企業が魅力的な就職先として認識され、地元定着が図られます。

また、ヘルステック関連企業への本市内外の高度人材の就職を促進する取組を行うことにより、U・Iターンが促進され、高度人材の確保や地元定着が図られます。

3 推進施策

各戦略の概ね5年間の推進施策を示します。

戦略1 ヘルステック・クラスター形成と構成企業の成長支援

(1) 研究開発から製品化, 海外展開を含めた事業化を支援

① ヘルステック事業化の一環支援
企業による, 新技術を開発するための共同研究開発, 製品化から海外展開を含めた事業化について, 個別またはパッケージで様々な段階における支援を行う。
② 異業種との連携による事業化支援
I T産業や農林水産業など異業種やI L C誘致との連携による, 研究開発や製品化, 事業化を支援する。

(2) ヘルステック関連産業におけるイノベーションの創出

① A I ・ I o Tプラットフォームとの連携促進
A I ・ I o Tプラットフォームとの連携を推進し, ヘルステック関連企業とI T企業との有機的なネットワークによる情報交換, プロジェクト創出を支援する。
② 企業間・産学官連携プロジェクトのスタートアップの支援
ヘルステック関連企業による企業間・産学官連携プロジェクトに係るスタートアップを支援する。
③ 研究開発プロジェクトの誘致
国内外のヘルステック・クラスターや研究機関と連携し, 研究開発プロジェクトの誘致を図る。

(3) ヘルステック関連企業を呼び込む拠点の創出

① ヘルステック集積拠点化の検討
道明地区新産業等用地を中心とした盛岡南地区におけるヘルステック企業の集積, 産学官交流の拠点化に向けた検討を行い, これに基づいた施策を措置する。
② ヘルステック関連企業の誘致促進
T O L I C等ヘルステック・クラスター中核企業と連携しながら盛岡市への企業誘致を図る。研究開発プロジェクト参画企業に対する立地優遇制度の創設を検討し, これに基づいた施策を措置する。

(4) ヘルステック関連産業におけるベンチャー創出の促進

① ヘルステック関連スピンオフ創業の支援

補助制度の設立などを検討し、ヘルステック関連企業からのスピンオフ創業を支援する。

戦略2 ヘルステック関連企業と連携した地域住民参画プロジェクト支援

(1) 地域住民の健康増進をもたらす事業の創出

① 健康増進プロジェクトの推進

実証実験フィールドの提供や行政と民間のデータ連携の推進などにより、ヘルステック関連企業が持つ技術を地域住民の健康増進に活用する事業を推進する。

② 盛岡ヘルスケア産業協議会の活動支援

産業振興と地域住民の健康増進の同時実現を目的とする盛岡ヘルスケア産業協議会による、住民参画事業のコーディネートや事業周知、医療機関との連携などを支援する。

(2) ヘルステック・クラスターと地域との連携促進

① ヘルステック関連企業の地域への参画支援

ヘルステック関連企業の地域への参画を支援するため、ヘルステック関連企業が参加した一般市民向けサイエンス講座、子供向け体験会等を実施する。

② ヘルステック関連企業の周知促進

一般市民がヘルステック関連企業やTOLIC等ヘルステック・クラスターの認知度を高めるため、メディア等を活用した周知を促進する。

戦略3 人材の育成・確保・定着

(1) 人材育成

① 高度ものづくり人材の育成

ヘルステック関連企業の将来を担う高度ものづくり人材を育成するため、TOLICなどヘルステック・クラスターと連携し、クラウドファンディングの活用等による高校生や大学生等に対する人材育成の仕組み作りを行う。

② ヘルステック関連企業への就職促進

人材育成とヘルステック関連企業への就職促進を図るため、HIHを拠点にした学生向け長期インターンシップなどを実施する。

(2) 人材を盛岡市に呼び込む

① スペシャリスト人材の獲得支援

専門性の高い人材のヘルステック関連企業への就職促進・定着を図るため、ヘルステック関連企業への高度ものづくり人材の中途採用のスキームを検討し、これに基づいた施策を措置する。

② U・Iターン就職の促進

首都圏等に居住している人材が、盛岡市内のヘルステック関連企業へ就職することによるU・Iターンを促進する。

(3) 児童生徒・学生を対象としたヘルステック企業の周知

① 児童生徒・学生へのヘルステック関連企業の魅力の周知

子供がヘルステック関連企業に魅力を感じ、持続的に人材確保・定着を図るため、盛岡市内外の子供が、ヘルステック関連企業の持つ技術や先進的な事業を体験・学習する機会を創出する。

4 各主体に期待される役割

本戦略の実現に向けては、ヘルステック産業に関わる各主体が本戦略を理解し、連携して取り組むことが必要であることから、各主体に期待される主な役割を次のとおり示します。

(1) 企業

- ヘルステック産業への新規参入・生産拡大
- 大学・試験研究機関，産業支援機関との連携による共同研究・製品開発
- 医療機器メーカー等との新規取引・取引拡大
- 研究開発拠点，生産拠点の設置
- 住民や医療機関と連携した実証試験等の実施
- 自社の取組の住民等への周知
- 人材育成・確保・定着

(2) 大学・研究機関

- ヘルステック関連技術等の研究シーズ創出
- 企業との研究開発における連携，共同研究
- 人材育成・定着支援

(3) 産業支援機関

- 新規参入を目指す企業の掘り起こし
- ベンチャー企業の創業・成長支援
- 企業のヘルステック産業への新規参入・取引拡大のためのコーディネート
- 医療機関と企業との研究開発におけるマッチング，フォローアップ

- 技術力・経営力向上支援
- 人材育成・定着支援

(4) 金融機関

- 研究開発や製品化，事業化に対する支援
- ベンチャー企業の創業・成長支援

(5) 医療機関

- ヘルステック関連企業が行う研究開発等への連携や参加
- ヘルステック関連企業が住民と連携して行う健康増進事業等への参加

(6) 住民

- ヘルステック関連企業が行う健康増進事業等への参加
- ヘルステック関連企業の活動を体験・学習する機会等への参加

(7) 行政

- ヘルステック産業の創出・集積に係る施策の企画立案・実施
- ヘルステック関連企業及び取引企業の誘致
- ヘルステック集積基盤の形成
- ヘルステック関連企業と住民，医療機関との連携のコーディネート
- 人材育成・確保・定着支援
- ヘルステック産業振興の取組の住民等への周知